

第 24 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2017 年 11 月 28 日(火)16:00～18:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 中長期ロードマップ改訂について

資源エネルギー庁から、2017 年 9 月に改訂された中長期ロードマップについて説明。

2. 廃炉等積立金制度の概要及び今後の進め方について

NDF 事務局から、2017 年 10 月から施行された廃炉等積立金制度の概要及び今後の進め方について説明。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

○この制度の下、廃炉を進めていくためにNDFと東京電力とで一緒になって取り組んでいく上では、目標に向かってどのように段階を区切って歩を進めるか、各段階をクリアする取組の必要要件が何であり、それを満たしつつ、どのようにその取組を進めていくかを関係者間で共有することが必須であるため、プロジェクト管理が非常に重要となる。

海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

○プロジェクト情報の可視化と定量的進捗管理について言えば、NDFと東京電力で共通のプラットフォームを使い、組織が一つにまとまって、管理を進めていくことが望ましいと思う。

3. 今後の廃炉事業の進め方について

NDF 事務局等から、今後の廃炉事業の進め方について、説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

○事故炉の廃炉を進めていく上では、プロジェクト側とライン側との現場における議論が非常に必要となってくる。

○廃炉を進めるのに役立つ研究開発課題は、原子力分野以外にも沢山ある。また、当面又は将来の取組を進めるのに必須の課題や、個々の取組の効率化に効果的な課題もある。それらに要する時間や資源と成果の関係を理解しつつ、廃炉の目標を達成するために必要な取組の計画を立てるには責任を持つディビジョンがどうしても必要になる。若手を含めて、専門的な研究者がいるグループを組織した方が良いのではないかと。

○研究開発を廃炉の取組のマネジメントシステムの中にきちんと位置付けて、目標達成のためにどういうことを、なぜ今行おうとしているのかが見える形にしていくことが重要。

- 地域とのコミュニケーションに関しては、今までのコミュニケーション活動をコピーして行っていけば良い訳ではない。地域社会の皆さんと議論し、その結果を踏まえて、次のステージでは誰と何を大事に意思疎通すべきかを絶えず考え、取組を設計していくことが大切である。
- 福島第一原子力発電所で働いている方々がこれから先、30年・40年の間モチベーションをどうやって保っていくのか、行けるのか、これが非常に大事なポイントである。この日本での苦勞が、アクセス可能な役立つイノベーション・技術として残っていけば、世界にとって非常に大きな財産となると思うので、そのことにも注意して取組を設計・運営して欲しい。福島第一廃炉国際フォーラムは、そういった観点からも実施する意義があると考えており、この点、地域の皆様にもある部分では担い手として御活躍いただくことも含め、御理解いただくことが重要であるし、非常に大事なことである。

海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

- 廃炉については、良いプロジェクト管理を行うことが、より安全管理にもつながると考えられる。
- 東京電力とNDFは変容をしようとしている。NDFは資金管理が必要になり、東京電力は、プロジェクトや契約の管理、コストの管理・分析が必要になると思うので、それぞれがこのような責務を担う能力を持つ必要がある。
- 研究開発はさまざまな機関がかかわるので、全体を見る姿勢を持ち、一貫性のあるプログラムで共通理解を持って進められる体制を組むことが重要である。
- 廃炉のマイルストーンとリンクした形で、研究開発の全体的な計画が策定されることを望む。また、期待する成果が得られないといったことも考えられるので、最初の計画どおりいかなかった場合の「プランB（代替案）」も含めた研究開発計画となることを望む。
- 地域コミュニケーションについては、対象のグループにより、利害、興味が異なるので、受け手を同定し、それに合ったコミュニケーションを行っていくべき。

4. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の状況について、陸側遮水壁等の汚染水対策の進捗、3号機の燃料取り出しカバー設置等の1～3号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた準備の進捗、3号機のミュオン測定等各号機の内部調査・各種分析状況等の報告があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 陸側遮水壁の効果に関しては、しっかりと検証が行われることを望む。

5. その他議題

NDF事務局から、以下の事項等について説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動実績
- 廃炉等技術委員会等の主要スケジュール

以 上